

## 「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」

高等学校定時制・通信制課程における非行・犯罪歴を有する生徒等の  
学習ニーズに応じた指導方法等の確立及びその普及を図る

2019年度 中間報告（2年次）

NHK学園高等学校

## 【 目次 】

I. 本調査のねらい	1
II. 目標及び今年度の成果	1
1. 生徒概況	
(1) 今年度入学生	
(2) 昨年度入学生	
2. 学習システムの確立	
3. 他機関、地域との連携	2
4. 特別活動領域	
III. ネット学習の確立	3
1. 前年度確立した基盤	
2. 今年度の具体的試行	
(1) ネット学習の概要	
(2) 院内学習におけるネット学習の課題	
(3) タブレットの概要と課題	
IV. 今年度入学者の状況・環境	5
1. 入学者ケース1：Mさん	
2. 入学者ケース2：Tさん	6
3. 入学者ケース3：Hさん	7
V. 出院時の協働、その後の指導と生徒状況	8
1. 出院者ケース1：Sさん	
(1) 出院時のカンファレンス	
(2) 生徒の傾向と特徴	
(3) 生徒への指導、サポートと所感	10
(4) 振り返りと未来	11
2. 出院者ケース2：Aさん	
(1) 出院時のカンファレンス	
(2) 生徒の傾向と特徴	14
(3) 生徒への指導、サポートと所感	15
3. 出院者ケース3：Mさん	16
(1) 出院時のカンファレンス	
(2) 振り返りシート	18

4. 出院者ケース4：Hさん	.....	20
5. 「多摩少年院サポーター会議」への出席		
VI. 次年度の課題	.....	21
1. スクーリング、試験		
2. ネット学習		
3. 所属クラス		
4. その他		
(1) 地域社会への再統合		
(2) 学習の負荷		
○添付資料		
* 1：再犯防止推進計画 ～学校等と連携した修学 支援の実施等のための取組	.....	23
* 2：ネット学習の例	.....	25

## I. 本調査のねらい

本事業は、「再犯の防止等の推進に関する法律」第 11、13 条を主な理念とし、3 年間にわたる研究において実施するものである。その内容は少年院等における少年のうち高等学校で学ぶ意欲のある者に対し、社会の中で自らの主体的な生き方を確立することにつながることを、矯正教育と並行し高等学校教育の中で目指す。また、その具体的な手法を用いて指導を展開し、指導方法確立のために本調査・研究を進める。

＊添付資料 1 参照

## II. 目標及び今年度の成果

再掲になるが、今調査研究は大きく次のことを目標としている。高校における教育制度を踏まえ、通信教育課程における教育展開と同様の学習を実現するための手法を確立していくこと、そして意欲ある生徒を中心に、少年院にありながら高等学校卒業にふさわしい教育方法を確立することである。以下に各目標と成果を述べる。

### 1. 生徒概況

#### (1) 今年度入学生

上記を前提に、今年度前期 1 名の生徒が多摩少年院から入学。後期入学は 2 名で、この後期生からネット学習をスタートすることができた。3 名共に学習は順調に進んでいる。

#### (2) 昨年度入学生

昨年度入学生 2 名の内 1 名が、2020 年 3 月をもって卒業となり、本人の願いがかなえられた。多摩少年院の教官の方々と関係機関のご尽力に感謝を申し上げたい。

もう 1 名は 3 年次生であったが、生活状況上困難が多く学習が十分にできず、単位修得と卒業には至らなかった。

担任は昨年度同様に入学時から定期的に院を訪問し、生徒と面談を重ね、出院後も指導を行ない、学校全体の調整も委員と行なった。卒業がかなわなかった 3 年次生の生徒については残念であると同時に、今後また自分自身が育つ場の一つとして、学習活動、担任やその他の教員と関わり学校を役立ててほしいと考える。その猶予期間をもらったと捉えたい。

### 2. 学習システムの確立

#### 【目標】

本研究に関わる本校の教育課程の編成実施に際し、放送視聴、レポート作成、そしてスクーリング等の各領域について、在院者にどのような学習スタイルを提供できるか、前年度の実施をもとに、ネット学習の構築を検討する。

スクーリングの実施方法については、法務省及び少年院の担当者との協議を行い、少年院施設の活用や本校施設の利用、学ぶ立場の在院者との面談等も含め、そのシステムを検討する。

## 【成果】

昨年度、少年院内においてタブレットによるNHK 高校講座の放送視聴が可能になった。その実績を基盤に法務省、少年院、NTTdocomo を交え少年院内でのセキュリティ等の安全性を確保した。その結果、少年院内におけるレポート作成後の送信、添削後の返信というネット学習を開始することができた。

### 3. 他機関、地域との連携

#### 【目標】

一人ひとりの生徒を主体に考えた時、少年院在院中の学習等の在り方だけではなく、退院後、社会に出た後の学習継続に向けた体制作りも検討する必要がある。学校組織だけではなく、社会に存在するさまざまな仕組みを有機的に連携し、学習対象者が社会で存在意義を感じながら生き抜く力を醸成できる体制づくりも研究対象とする。

#### 【成果】

本人、保護者、少年院教官、保護観察所、保護司などを含めた出院前のケースカンファレンスを、多くの方の尽力により開催することができた。その中で本人の気持ちの表明、日常生活を取り戻すこと、再犯をしないことや学習継続の確認などを行なった。思いや目標、情報などの共有を行なうことで、本人の不安を取り除くことにもつながった。

### 4. 特別活動領域

#### 【目標】

高校教育における全領域に関わる教育的指導内容を施すことを前提に、教科指導に重点を置くものの、特別活動領域等についてもその重要性からその指導を重視していく。また、その視点からやがて社会に出たときの適応能力を育てていけると考える。

#### 【成果】

振り返りシートについては、テーマを担任と決め一定量の記述をするため効果は高い。しかしながら生徒への負荷を再検討する必要があると考える。在院中は矯正教育プログラムとレポート学習との調整、出院後は学習と生活に戻る過程でのバランスがある。一つ一つを確実に安定させる必要がある中で、半期に一度程度の答えやすい書式にする等、生徒が振り返りと積み上げができ負荷の少ないありようが必要であることが分かった。

その他、課題であったスクーリング面接指導のあり方、院内試験の検討、評価・効果測定など、部分的な実行と検討はあったが昨年度同様に課題となっている。次年度に引き続き検討し取り組みたい。

### Ⅲ. ネット学習の確立

#### 1. 前年度に確立した基盤

前年度本事業の開始に当たっては、少年院内でのネット利用は困難なため、紙レポートに取り組む「ベーシックコース」に入学した。その際、NTTdocomo から提案のあった「あんしんマネージャー」「i-FILTER」サービスを利用することで、機能制限と Web フィルターを実現することができた。この結果、NHK 高校講座にのみアクセス可能となり、学園での学習に不可欠の放送視聴が院内でできるようになり学習開始に至った。

#### 2. 今年度の具体的試行

##### (1) ネット学習の概要

ネット学習は以下の流れで成立している。

- ①教科書、学習書は印刷物を利用、放送視聴はタブレットやパソコン等で行なう。
- ②その学習をもとに NHK 学園の N-gaku Online Space (NOS) 上にあるレポート課題に  
入力し、生徒が送信する。
- ③科目担当教員が提出レポートに概評を入力し返信する。
- ④生徒は返信されたレポートの添削内容、解答例を確認、学習を完結する。

\*添付資料2参照

##### (2) 院内学習におけるネット学習の課題

ネット学習の上記特徴により、以下の条件をクリアすることが求められた。

- ①外部リンクにアクセスできないこと、発信できないこと
- ②教員も含め、メールのやりとりができないこと
- ③ホームページのお気に入り登録などの入力制限をすること
- ④レポート作成において、長文入力（自由記述）をした際、教官が入力内容を確認できる  
環境であること
- ⑤上記④において課題以外の不適切な記述をした際、それに対し適切な添削、指導がなされ  
ること
- ⑥法務教官がレポート記入内容について事前確認可能とすること

これらの課題すなわち学習目的に外れた利用ができないこと、その確認や対処がなされ得ること等、安全性の確保が必要とされた。法務省担当者と情報部門、多摩少年院とにそれぞれ試用タブレットを検証してもらい、安全確認が完了した 12 月からネットレポートでの提出が可能となった（環境が整うまでは、生徒に紙レポートに取り組んでもらっていた）。

##### (3) タブレットの概要と課題

###### ①安全性

セキュリティや管理運営上、「KAITO」というサービスを利用すること、教官に別アカ

ウントを付与すること、等をじっしすることで概ね上記内容をクリアし実現することができた。

NOS 内でも、自身の学習状況の確認と、レポートの入口があるだけのサイト（NHK 学園学習手帳）を利用することで、新たな開発をせずに外部リンクのアクセスやメール機能を制限した。

自由記述については、「添削依頼」後は、「学習を開始する」ボタンの代わりに、「解答を閲覧する」ボタンが表示されるようになるため、そこから閲覧することで対処可能になっている。

## ②使用デバイスについて

生徒は他の院生に非開示で学園で学習している。そのため iPad は持ち歩きが容易であり、対象生徒が他の院生に悟られることなく、高校講座の視聴、レポート作成を行なうことができた。また、iPad は他の教育機関でも利用されていることが多く、外部とのやり取りを制限する機能が充実していた。外部企業（NTT docomo）が間に入ったことで、専門的な制限を任せることができた。

## ③課題

- ・セキュリティの関係上（複数のサイト間で情報を共有できないようにするため）、「コピー&ペースト」機能が制限されている。科目によっては、高校講座内にある理解度チェックに取り組むと表示される「パスコード」を入力するものがあり、手入力では困難である。今年度は対象科目が少なかったため、紙レポートの放送課題に取り組んでもらうことで対応した。

次年度も同じように対応するか、コピー&ペーストができることを必須と考えるか検討する必要がある。

- ・iPad はもともとキーボード入力を想定したつくりになっていないため、「ネットレポートに取り組む」ことを目的とした場合、chromebookの方が扱いやすく、低コストの可能性もある。その場合、必要とするセキュリティ面をクリアできるのか、更新プログラムや端末管理面を含め、検討する必要がある。

#### IV. 今年度入学者の状況と環境

多摩少年院からの入学にあたり、今年度も院にNHK学園教員が赴き入学面接を実施した。昨年同様、本人及び教官が同席、合わせて保護者も来訪、保護者との面談も行なった。いずれの生徒も学習と高校卒業を目標とし、更生の願いを持つものであった。各生徒の様子は以下の通りで、指導やケアにつながるようやや詳細な記録とする。

##### 1. 入学者ケース1：Mさん

\*履修状況：26単位履修済み、2年次で8科目26単位履修→2020年度は3年次生に進級

文科研究・面談報告書 NO. 1		※下線は要点。		取扱注意	
作成日(対応日)				印刷	1枚(共有・担任)
生徒番号		連絡者		対応・記録	研究事業担当 教員2名
性別		家族状況			
在籍(コース・曜日クラス・担任)					
居住地(都道府県・市区町村)					
<p><b>*所感：4年制大学への強い願いと意志を持っており、その思いを大切にしながら学習活動を継続することで視野と体験が広がり、再犯の防止につながると思う。また得意な学習を伸ばすことで、自己肯定感を持つことが可能になる。</b></p>					
<p>I 主な内容</p>					
<p>II 本人の様子・願い</p>					
<p>III 家族の様子・願い</p>					
<p>IV キーパーソン:</p>					
<p>V 受診、支援等:</p>					
<p>VI 経済状況</p>					
<p>VII その他気になる点・担当職員より</p>					



## 2. 入学者ケース2：Tさん

\*履修状況：31単位履修済み、2年次で6科目17単位履修→2020年度は3年次生に進級

文科研究・面談報告書 NO. 1		※下線は要点。		取扱注意	
作成日(対応日)				印刷	1枚(共有・担任)
生徒番号		連絡者		対応・記録	研究事業担当教員 2名
性別		家族状況			
在籍(コース・曜日クラス・担任)					
居住地(都道府県・市区町村)					
<p><b>*所感：進学への強い願いと反省をしております、学習活動を柱に継続する力とし、更に振り返る力をつけることで再犯の防止につながると考える。</b></p>					
<p>I 主な内容</p>					
<p>II 本人の様子・願い</p>					
<p>III 家族の様子・願い</p>					
<p>IV キーパーソン：</p>					
<p>V 受診、支援等：</p>					
<p>VI 経済状況：</p>					
<p>VII その他気になる点・担当職員より</p>					

### 3. 入学者ケース3：Hさん

\*履修状況：48単位履修済み、3年次で科目14単位履修→2020年度は3年次生残る12単位を履修

文科研究・面談報告書 NO. 1		※下線は要点。		取扱注意	
作成日(対応日)				印刷	1枚(共有・担任)
生徒番号		連絡者		対応・記録	研究事業担当教員 2名
生徒氏名		部活等			
性別		家族状況			
在籍(コース・曜日クラス・担任)					
居住地(都道府県・市区町村)					
<p><b>*所感：振り返る力を強く持っている。学びへの意欲も高い。学習活動で進学への意思を固め、さらに視野を広げ振り返ることで再犯の防止につながると考える。</b></p>					
<p>I 主な内容</p>					
<p>II 本人の様子・願い</p>					
<p>III 家族の様子・願い</p>					
<p>IV キーパーソン：</p>					
<p>V 受診、支援等：</p>					
<p>VI 経済状況：</p>					
<p>VII その他気になる点・担当職員より</p>					

## V. 出院時の協働、その後の指導と生徒状況

今年度についても、レポート学習の支援、スクーリングへの同行と見守り、ネット学習の試行など、多摩少年院の先生方の多大な尽力と協働があってこそ成立したといえる。

今年度はさらに出院前にカンファレンスを開催していただき、支援者のみならず、当事者そして保護者も含めた会議となった。そこでは生徒の思いや出院後への不安、孤立感なども表明され、具体的な支援者のアドバイスや願いも伝えられている。本人の振り返る力を最大限に引き出した矯正教育の結実と、出院後の方向性や支援のネットワークを再確認することができた。

カンファレンス内容と合わせて、ここでは生徒が記入した振り返りシート等の内容を分析したもの、そして学校での指導内容をあげ、生徒理解と協働効果を測る一助としたい。

### 1. 出院者ケース1：Sさん

今年度、無事に卒業した生徒である。本人も仕事をしながら学習時間を何とか捻出し、大変な努力をしておいての卒業である。同時に在院中からの教官による学習支援やその習慣づくり、そして出院後の家族のサポートや多くの教員の見守りと指導が支えた卒業でもある。

#### (1) 出院時のカンファレンス \* (1)は生徒の全体像を捉えるために 2018 年度の内容を抜粋再掲。

社会内処遇の理念のもとに出院後は地域社会に復帰していく。その際、地域では保護観察所と保護司がキーとなる。昨年 12 月に出院した S さんについては、駐在官事務所をスクールソーシャルワーカーの役割を担う教員 3 名で訪問、以下の情報共有等を行ない次年度の指導にあたっている。

①遵守事項：一般遵守事項に加えて、次の 2 点がある。

- ・就学と就職活動
- ・共犯者との交際の禁止

まさに 1 点目の内容については、双方の協力が重要となる。

③現在は保護司が、月 2 回の面接を行なっている。必要があれば、家庭訪問や保護者への電話連絡も実施する。

保護者が書類等の手続きが困難なケースで、学習継続に必要な手続きが滞った場合、指導に加え手続きの支援も必要に応じて可能。

#### (2) 生徒の傾向と特徴

生徒が記入した振り返りシート（タイトル「今月の学習記録」）等の記述内容をシステム担当教員が解析にかけ、言葉の抽出とカウントで記述内容を視覚化した。以下はその結果である。

点数化した評価方法ではないが、一定の傾向が視覚的に読み取ることができる。

\*方法：形態素解析は Mecab で、さらに辞書を Neologd にカスタマイズして実施。

ネガポジ分析は東北大の乾・岡崎研究室が公開している日本語評価極性辞書を活用。

n=ネガティブ、p=ポジティブ、e=イーブン ※イーブンはカウントせず

別途、頻度のカウントあり。



【概要】

- ・ 語句の使用頻度の多さは、「自分」「高校」「思い」「進学」と続く。
- ・ ポジティブな語句と、イーブンな（平らな、つり合いのとれた）語句のみで記述がなされている。ネガティブな言葉の使用はみられない。

主語に「自分が」、また副詞的に「自分で」などの記述があることが多い。自分の思いや決断、主体性を持って選択しようとする姿勢がうかがえる。そして上級校を目指し、まずは高校卒業を大切にしたいこと、そこから将来の仕事につなげたいことなどを、見通しを持って述べている。

また、後述の「(4)振り返りと未来」の内容と、明確な一貫性がある。

以下、記述の一部を抜粋。

「高等学校卒業程度認定試験に合格したが、高卒資格が欲しいと考え高校への進学を模索していた… スクーリングや部活動に積極的に参加し自分に合った学習方法で学習に励み、様々な学校行事を通して充実した高校生活を送りたいです。高校卒業後は小さいころから夢である建設業に携わりたい為、建築関係の分野がある学校へ進学し、学びたいです。… 教官の先生から声をかけていただき、…この機会を無駄にせず、自分の将来

に向かって、高校を卒業し、将来やりたいことをやれるようにしたいと思います。」

「(出院後) 今月はバイトと、勉強を両立して生活できました。仕事が終わった後も放送視聴をしていました。家庭総合の衣類についての学習は、今後一人立ちして自分で全てをやる上で大切になってくると思いました。…」

### (3) 生徒への指導、サポートと所感

#### ①生徒の様子

初対面時から、挨拶、言葉遣いなどが静かだがハキハキしており、誠実な印象。身なりは…清潔感があり、おしゃれでもある。

何事も事前に本人から担任に確認の電話が入ることが多く、計画性がある。学校からの文書もよく読み込み理解もされ、電話の確認と合わせてスクーリング出席や学習の予定を担任と共有していた。一方、仕事や家庭のイベントで、出席する曜日を変えることがしばしばあった。…

気分の波が少しあり、卒業を諦めるような発言もあり、サポートが必要な場面もあった。

#### ②学習状況

生徒の特徴を念頭に、出院後、単位認定が近づいた時期の指導内容を述べる。

##### ●レポート

本生徒は在院中には紙のレポートで学習していたが、出院の翌年度にネット学習にコース変更した。1月時点では、卒業に向けて意欲的に学習に取り組んでいる。

レポートは、当初ネットと操作上のトラブルのために上手く提出に至らず、一度気持ちが切れかけたが、あきらめずに少しずつ提出を続けている。トラブル発生時には、応急処置で担任から送った紙レポートのコピーに解答を記入し、その後ネットレポートに入力するという根気の必要な方法で乗り切ることができた。

##### ●スクーリング

通常スクーリング時に…、該当科目の出席を認められなかったことが…あった。しかしながら話し合い、時間をおいた結果、受け入れることができた。成長がうかがえる。

##### ●テスト

受験のスケジュールや必要性を理解し、着実に遂行できている。

##### ●手続き

既に合格している高認試験の免除申請を、ほぼ滞りなく自分の力で行なうことができた。

#### 【本研究事業委員及び最終年担任としての所感】

「学習指導における再犯防止効果」については、本生徒の場合、高校を卒業した後の目標が現実的に本人に見えている。また、それに対する職場や家庭の理解やサポートがある。そのため本校での学びが、さらに相乗効果となっている。つまり、前述2点の前提がなく、本校での学習だけでは、再犯防止をひきとめる力は弱くなってしまう。また、通信制における生徒の中でも、より頻繁に連絡を取り合い、居場所があることを常に意識させる必要性も感じる。

#### (4) 振り返りと未来

卒業に際して、生徒本人と今までのことを振り返り、また将来の夢について聴き取った(心からうれしく聴いたことを言い添える)。

##### ①卒業して思うこと

「仕事と勉強とを両立させるのが、とても大変だった。やり切った。卒業できた実感が湧くのにかかかった。やはり、うれしい。

学歴を気にしたつもりはないが、これで高卒と言える、将来は専門学校でさらに勉強ができる、資格を取ることもできる。」

##### ②学校があつて良かったこと、大変だったこと

「学園に入らなかったら、いろいろな科目の勉強など一生しなかったと思う。今すでに勉強したことが、自分の仕事に活かしている。昨年、個人で事業を立ち上げた。勉強を続けるのにいろいろな人に助けてもらった。仕事仲間は学校のことも理解して、スケジュールとかを調整してくれた。両立は大変だったけど、夢をあきらめずに良かった。」

##### ③これからのこと・未来

「事業を軌道に乗せたい。それができたら自分は社内の運営をしながら、何とか専門学校に行きたい。前から勉強したかった建築の学校に、通える日を夢見ている。」

今年度はコロナウイルスの影響で本校では卒業式ができず、授与の会を開催。現段階では仕事が多忙な中、まだ卒業証書を取りに来られていない。今月末に本校に取りに来る際、職員一同、祝福したい。

## 2. 出院者ケース2：Aさん

昨年度入学したAさん…は3年次生に在籍していたが、今年度の卒業には至らなかった。来年度、不認定の科目を再履修し、自分らしい生活と仕事そして弁済など、全体のバランスを取った暮らしを学習も含めて再度立て直せる時間となる。

### (1) 出院時のカンファレンス

本事業で初めて開かれるカンファレンスとなった。当事者である生徒本人も出席した。出

院に際しての生徒の大きな不安や、不安をかかえつつ日々の生活を進めていくためには多様な支援者が不可欠であることがひしひしと伝わってくる会議となった。また項目8の目標と役割分担は全員で話し合った着地点でもあり重要となる。以下はその内容である。

◆ケース会議記録		取扱注意	
年月日		参加者	①保護観察所、保護司、青少年委員 ②多摩少年院：統括専門官、担任 ③NHK学園：担任、相談室
生徒情報	生徒番号 _____ 氏名 <u>Aさん</u> 生年月日 _____ 年 月 日 会場・コース・クラス _____ 担任 _____ 都道府県 _____ 市 _____	共有先	①②③
<p>1. エコマップ</p> <p>===== 良好 ————— 普通 +++++++ 葛藤 - - - 希薄</p>			
<p>2. アセスメント（見立て）</p> <p>少年院出院に際し、<u>更生を果たした自分を生活、仕事、人間関係、学業等を含めて、維持できるかどうかの不安を抱えている。</u></p>			
<p>3. 今回の確認点（目標）</p> <p><u>上記の不安を本人言葉で表明・確認し、具体的な対応策や支援、目標を三機関共に再確認する。</u></p>			
<p>4. 本人より</p> <p>「まっとうな人生を歩みたい。」「しっかり稼いで、迷惑かけた人の分も働きたい。」「一回失敗した後、どうするかが重要。やらない理由を作らない。」</p> <p>①仕事と学習の両立を図ることを念頭にスケジュールを立てていた。 ②就職先も依頼した。 ③遊びに逃げてはいけないと気づけた。 ④高校については、…支援があっでできていると気づき、感謝している。</p>			
<p>5. 各機関より</p> <p>①多摩少年院 担任</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・…体育レク担当として頑張っていた。他の人からの指摘も素直に受け入れ対応していた。</li> <li>…</li> <li>・小型車両重機、フォークリフトの資格を、院内で取得した。</li> </ul> <p>②NHK学園 担任より課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>今の生活習慣を維持する。</u>&lt;例&gt;以前家では、夕食だけだった。それを三食きちんととる。</li> <li>・昨年度、院での少ない空き時間に学習をがんばっていた。それを続ける。</li> <li>・月に一回のスクーリングには、必ず出席する。 ・運動をする。&lt;例&gt;陸上部で砲丸投げなど。</li> <li>・働く。学園生には、働きながら何年もかけて卒業する人もいる。</li> </ul> <p>◎学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あと4科目で卒業。本人と社会に出た後役立つ科目に絞った。簿記は3級にチャレンジする。</li> </ul>			

・締め切りを守る（本人：他者から言われないほうが良い）。スクーリングの空き時間には、レポートに取り組む。

③青少年委員  
働く場としてコンビニなどは接客の中で昔の仲間に出会う可能性もある。工事会社で資格を取りながら働くことを提案。手に職が付き、将来自分で独立することもできる。

④保護司  
昔の仲間とどう離れているか、縁を切るかは自分の意志にかかっている。

6. 本人の不安と対応、資源、提案

①「昔の仲間と町で出会ったらどうしたら良いか、また戻ってしまう不安がある。」  
・保護司宅、職場については地域が違うので安心すること。また、今回の職場には悪い仲間を遠ざける力はある。

②「生活、経済的側面（弁済等）が不安である。」  
・社会保険等はある、資格取得も支援がある。しかし当初は見習いである。待遇については、会社に確認をするように。働きながら、将来に向け相談する。  
・仕事に必要ということで保護観察下で自動車免許の合宿に行く場合は、申請と許可が必要。  
・...

③...

7. 出院後について

①院で身につけたスキル（感情に気づく、自制する、耐える等）を活かす。また出院までに、教官からSSTの指導を受ける（昔の仲間誘われた場合の対応などを想定）。

②休日はしっかり休むこと。がんばり過ぎない。

③新しい仲間を作る。  
・保護観察下で社会貢献活動があるので、相談、提案。  
・少年院出院者で支えあう「セカンドチャンス」に参加してみる。 ・仕事仲間を活用する。

④不安を持ち続ける強さを活かす。大人も皆、不安を持って生きている。

⑤院で生活に枠があったように、自分で枠組みを作る。今は枠を作る自由がある、それを活かす。

⑥その他、住所変更や健康診断書の提出など、学校の手続をとる。

8. 目標と役割分担		
目標	担う機関・人	具体的方法・役割
○短期目標		
・生活、仕事を軌道に乗せる。 枠組みを作り、安定させる。	保護観察所、保護司、青少年委員紹介の職場	面接等を通し見守る、指導する。
・高校を卒業する。	NHK学園、塾	大学生講師が支援、勉強場所として仕事後職場の一室を借りる。





勉強ということから夢を見つけ、院内の学習時間で長く集中して学習できたことに自信を持ち、社会に出てからも活かせるスキルであると本人が述べている。

以下、記述の一部を抜粋。

「前に行っていた学校では、僕自身卒業出来る自信も無く、僕自身やっていた勉強が身につかず、もう一回真剣にやり、高校を卒業したい… 視野を広げて、将来進学等につなげられるような生活を送りたいです。水道屋で働くことです。… 限られた時間の中、内省やいろいろな先生に分からない所があったりしたら質問が出来たりする環境だからこそ、あきずに長時間勉強することが出来ました。… (レポート作成で)達成感を感じたのと、そのあとに3人の先生に(レポート課題となっている)プレゼンテーションをやらせて頂いて、とても良い経験になりました。」

「最初 NHK 学園に入る前はとても不安でした。… 前の高校では通いだしてから半年近く経った時に僕の中で面倒くさいという気持ちが強くなっていて、だんだんと勉強をやらなくなっていき、遊び回って…非行に走っていた自分と、出院後にしっかりと続けられるかという葛藤がありました。…でも最後までやりたいという気持ちに徐々に変わっていて、できるか不安でしたが、やってみようという気持ちになって、入学しようと思いました。」

### (3) 生徒への指導、サポートと所感

#### ①生徒の様子

人懐こい笑顔で登校時には職員室に立ち寄り、声をかけてくれる。ユーモアがあり、ゆったりしている印象。身なりは清潔感があり、…おしゃれに気を配っている。

昨年12月頃に、やっと仕事の現場が安定してきた様子で、学習に心が向いてきた。以前は、前担任にあまりしつこく電話連絡をしないでほしいと伝えた時期があったようであるが、今はもっと電話をかけてほしいとのこと。気分の波はあるが、基本的に関りを持ちたい様子である。

#### ②学習状況

##### ●レポート

年度当初に出した1通のみ。12月来校時に自主的に図書館で取り組んでいたが、これも自主的に放送視聴をするために持ち帰った後、提出にはつながっていない。しかし、保護司が勉強を見てくれる機会もつくれるようである。

##### ●スクーリング

1月時点では、学習は停滞。年明けに約束していたスクーリングには現れず、電話にも出なかった。スクーリングは、1月後期生補習に出席にしても、1科目1時間不足する。今後、本人の意志を確認した上で、サポート体制を検討する予定。

##### ●テスト

中間試験は受験したが、思わしい結果につながらなかった。

**【本研究事業委員及び担任としての所感】**

「学習指導における再犯防止効果」については、本生徒の場合、当初身体的にも精神的にも仕事にそのエネルギーをほとんど取られていた。弁済の支払いや生活のために、仕事に専念せざるを得ないこと、また保護観察中の義務などを考え合わせると、相当の動機や覚悟が必要となる。かえって学習が足かせになり、何もかも放り出してしまわないか、という懸念を強く感じた（前述の生徒にも共通する）。

**3. ケース3：Mさん**

**(1) 出院時のカンファレンス**

入学者ケース1の生徒である。入学後、順調に学習を進めていた。前籍校で担任に強く反発していたとのことであるが、学園の教員にはフラットに接している。進学への意欲も強く持ち続けている中での出院となった。

◆ケース会議記録 NO. 1		取扱注意	
年月日		参加者	①多摩少年院統括専門官、担任 ②保護観察官、保護司 ③NHK 学園担任、SSW
生徒情報	生徒番号 _____ 氏名 <u>Mさん</u> 生年月日 _____ 年 月 日 _____ 会場・コース・クラス <u>2年次生（高認試験合格済み）</u> 担任 _____ 都道府県 _____ 市 _____		共有先 ①②③
<p>1. エコマップ</p> <p>===== 良好 _____ 普通 +++++++ 葛藤 - - - 希薄</p>			
<p>2. アセスメント（見立て）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国公立の大学進学を、強く希望している。細部に至るまで関心を持つ、完璧に進めようという意欲が伝わる一方で、スムーズに進まない時に折れてしまう危うさを感じられる。</li> <li>・以前の仲間とのつながりを切る方法に不安がある。</li> <li>・院内で自分でも気づけなかった力を見つけたが、基本的に自信がない。</li> </ul>			
<p>3. 今回の確認点（目標）</p> <p><b>○遵守事項：・夜間徘徊、たむろしない。・飲酒喫煙をしない。・就労と学習をする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムを作る。自分をしっかり持っているところと、弱い部分との自覚を持つ。</li> <li>・起こしてしまったことの影響、被害者への理解。そこから投げやりになることがあっても再犯に至らない。</li> <li>・まず卒業をする。後に続く後輩のためにも。そして自分の進路を見つける。</li> <li>・上記目標を持ち、他者の目ではない自己評価の軸を持つ。</li> </ul>			

#### 4. 本人より

- ・ 出院の翌日からバイトをする予定。
- ・ 本屋に教材を探しに行く。
- ・ 国公立大学へ進学する。理系を活かしたい。
- ・ 英語の民間試験は受けたくない。
- ・ 個別タイプの予備校に行きたい。
- ・ ...

\*社会的な不利益を意識している様子。複数の居場所確保が課題。

#### 5. 各機関より

##### ①本人に向けて

- ・ 院内で高度な情報処理の資格を取得した。素晴らしい力を持っている。対人面でも自分の殻に閉じこもらなかった。先生と相談しながら、誤解やぎくしゃくしたことに投げ出さず取り組んだ。
- ・ 被害者への理解が重要。もし前回同様に投げやりなること（教員に否定された）があっても、それがあれば犯罪に走らない。
- ・ お金にこだわっていたみじめな境遇から抜け出したい、というところから、...生活時間をしっかりと保つことが課題。
- ・ 以前の友人のSNSは消した。
- ・ 卒業を目指し、リズムを作る中で、学校の図書館や部活（サッカー部が候補）を活用する。

#### 6. 院より本人の状態、ニーズと対応、資源、提案

##### ①被害者

前回の事件の時には、被害者への言葉、理解はなかった。今回は出てくるようになった。鍵となる。

「迷惑をかけた。」「他人事みたいに聞こえるかもしれないけれど、可哀そうだと思う。」

##### ②他者理解

- ・ 話すことは持っている。他の生徒と比べてもコミュニケーションが下手で、教官に話かける際のフレーズがない。じっと立って見ている。
- ・ 冷たく聞こえる口調で、誤解される。ただし仲の悪かった子と、最後は数学を教える仲になり、本人も喜んでいた。「うれしかった。」「(その子が)分かって良かった。」など。大きな変化があった。

##### ③傾向

- ・ 柔軟さを求められるのは苦手。0か100か、完璧主義。折れないためにも、成功体験が必用。小さな目標を積み重ねる。\*学校以外は毎日バイトを、などの目標を立ててしまう。
  - ・ 寂しがり屋な面あり、ほめられることも必要。複数の居場所があると良い。
  - ・ ロジックで納得する。「結果この方があなたにとっても利があるよね。」といった、現実的な路線の話、本人の価値観に寄せた論理的な指導がむいている。
- \*声かけのフレーズの取得、断り方など SST を、出院前に実施することは時間的に難しい。今後の課題。

#### 7. 出院後について

○今後の相談先：母親、保護司、少年院（出院後支援）

8. 目標と役割分担		
目標	担う機関・人	具体的方法・役割
○短期目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遵守事項の確認</li> <li>・ 学習継続、学校の活用</li> <li>・ アルバイト、生活の安定</li> </ul>	保護観察所、保護司 NHK 学園 保護者	定期面接 定期的な登校
○長期目標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大学進学</li> <li>・ 自分に自信を持つ</li> </ul>	進路相談、手続き支援は学 園	面談、部活動など
9. 次回の会議予定		
なし、必要があった場合、調整の上、情報共有など実施。		

## (2) 振り返りシート（「今月の学習記録」）

本生徒の記入した内容からは、キーとなるのが「ふつう」「まとも」という言葉であった。また、学びに価値を置けなかった自分から、意欲的に取り組むまでに大きな転換を迎えている。院内では高度な資格試験にも合格しており、自分自身の持つ力を認め、進学という進路に向かおうと意識的になっている。教員から添えるコメントは自己肯定感を支え、気づきを強化し、さらに振り返りにつなげることを念頭に置き行なった。



#### 4. 出院者ケース4：Hさん

生徒Hさんは、スクーリング時も学ぶこと自体を楽しいと発言あり、生き生きと輝くように学んでいた。ネット学習の体制が確立した後、学習は良好で優秀な成績を修めた。

2月に出院するも、スケジュール調整と新型コロナウイルスの影響で未だケースカンファレンスは実施していない。今後、テレビ会議等の方法で実施を検討し、次年度の報告とした。

#### 5. 多摩少年院サポーター会議への出席

多摩少年院は広く社会に開かれた機関であり、就労の支援などに加え、NPO法人育て上げネットによる学習支援、FC東京での職場体験、特別活動での絵本点訳などを取り入れ、多くの支援者・団体とつながり協働している。

今年度、初開催となるサポーター会議に、NHK学園も出席させていただいた。支援者全体が一堂に会し互いの顔が分かり、幅広い分野からの支援があること、支援の立場は違っても、子ども達が自分らしい人生を取り戻す支え手として機能していることが分かった。学校教育としての役割を考える一助となる会でもあった。

## VI. 次年度の課題

以下にあげる課題について、次年度に他機関とも相談・連携しながら、可能な取り組みと有効性に欠ける側面等を確認、模索したい。通信制高等学校の学びが社会への再統合をサポートする一つの小さな手として、生徒が自分らしい人生を歩むベースづくりとなり再犯防止につながるのか。また全国の公立通信制高等学校を含め汎用性のあるものになり得るのか（それが実現化した時には、難病など治療のため長期入院を余儀なくされる子ども達にも朗報となる）等を念頭に置きながら最終年度を実施したい。

### 1. スクーリング、試験

前年度の課題も含めて以下があげられる。

- (1) 院内スクーリングの実施、教官のスクーリング講師などの検討。
- (2) 在院中のスクーリング免除の可能性の確認、検討。
- (3) 定期試験の院内実施。
- (4) 振り返りシートの見直し、開発や活用、評価・効果測定の方法。

### 2. ネット学習

- (1) 安全性のために機能が制限される範囲の見直し。
- (2) iPad 以外のツールの可能性（例として chromebook など）。

### 3. 所属クラス

現在、出院後の所属クラスは原則として年度内は据え置き、年度変わりに本校の別曜日に変更も可能とした。担任やサポートチームとの引継ぎ共有等を念頭に、現在の所属は本校に限っている。今後、協力校への会場変更の希望があった場合、協力校を本校内チームまで包含し得るのか、検討を要する。

### 4. その他

#### (1) 地域社会への再統合

生徒は最終的にどこで暮らし、生活をつくっていくのであろうか。生まれ育った自分自身の居住地に戻るのであれば、地域の公立通信制高校への入学を検討できないか。来年度の研究事業の成果をもって各地域の公立通信制高校も実施できる可能性はないか。もしそれが実現すれば、地元で高等学校で働きながら学ぶことができ、地域的にも身近な先生方と関わりながら学習ができる。本研究事業で開発したタブレットやその他のノウハウを託すことで、全国のどの地域に戻ろうとも、また居を移そうとも通信制高校に在籍することができる。

出院者の地域社会への再統合の意味を微力ながら考え、関係機関とその可能性も探りたい。

#### (2) 学習の負荷

ケースの生徒たちは「卒業後」を見据えた学習を強く意識することで、学習継続を固める



こと、そして再犯予防につながる部分は大きい。一方で他の同年代の生徒に比べ、仕事や弁済など「やるべきこと」が多いと感じる。また、集中力の持続に課題を抱えているケースもあり、大きな学習の負荷をかけることで、途中で挫折する可能性もある。最短での卒業を目指すのではなく、科目数を絞って確実に進める道筋を本人、家族と一緒に考えていく必要がある。合わせて振り返りシートについても、その負荷の度合いや内容、効果、形式等を再検討する。

## ○添付資料

＊1：『再犯防止推進計画 平成29年12月15日』より「学校等と連携した修学支援の実施等のための取組（推進法第11条、第13条関係）」

### 第4 学校等と連携した修学支援の実施等のための取組（推進法第11条、第13条関係）

#### 1. 学校等と連携した修学支援の実施等

##### (1) 現状認識と課題等

我が国の高等学校進学率は、98.5パーセントであり、ほとんどの者が高等学校に進学する状況にあるが、その一方で、少年院入院者の28.9パーセント、入所受刑者の37.4パーセントが、中学校卒業後に高等学校に進学していない。また、非行等に至る過程で、又は非行等を原因として、高等学校を中退する者も多く、少年院入院者の36.8パーセント、入所受刑者の24.6パーセントが高等学校を中退している状況にある。

政府においては、高等学校の中退防止のための取組や、中学校卒業後に高等学校等へ進学しない者及び高等学校等を中退する者に対する就労等支援を実施するとともに、矯正施設内における高等学校卒業程度認定試験の実施、少年院における教科指導の充実、少年院出院後の修学に向けた相談支援・情報提供、少年院在院中の高等学校等の受験に係る調整、BBS会（Big Brothers and Sistersの略であり、非行少年の自立を支援するとともに、非行防止活動を行う青年ボランティア団体）等の民間ボランティアの協力による学習支援等を実施してきた。

しかしながら、学校や地域における非行の未然防止に向けた取組が十分でないこと、犯罪をした者等の継続した学びや進学・復学のための支援等が十分でないことなどの課題がある。

##### (2) 具体的施策

###### ① 児童生徒の非行の未然防止等

###### ア 学校における適切な指導等の実施

文部科学省は、警察庁及び法務省の協力を得て、弁護士会等の民間団体にも協力を求めるなどし、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号）等の趣旨を踏まえたいじめ防止のための教育や、人権啓発のための教育と併せ、再非行の防止の観点も含め、学校における非行防止のための教育、薬物乱用未然防止のための教育及び薬物再乱用防止のための相談・指導体制の充実を図る。また、厚生労働省の協力を得て、学校生活を継続させるための本人及び家族等に対する支援や、やむを得ず中退する場合の就労等の支援の充実を図る。

【警察庁、法務省、文部科学省、厚生労働省】

###### イ 地域における非行の未然防止等のための支援

内閣府、警察庁、法務省、文部科学省及び厚生労働省は、非行等を理由とする児童生徒の修学の中断を防ぐため、貧困や虐待等の被害体験などが非行等の一因になることも踏まえ、地域社会における子供の居場所作りや子供、保護者及び学校関係者等に対する相談支援の充実、民間ボランティア等による犯罪予防活動の促進、高等学校卒業程度資格の取得を目指す者への学習相談・学習支援など、児

童生徒の非行の未然防止や深刻化の防止に向けた取組を推進する。また、同取組を効果的に実施するために、子ども・若者育成支援推進法に基づき、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子供・若者の支援を行うことを目的として、地方公共団体に「子ども・若者支援地域協議会」の設置及び「子ども・若者総合相談センター」としての機能を担う体制の確保について努力義務が課されていることなどについて、非行の未然防止等の観点も踏まえ、関係機関等に周知し、連携の強化を図る。【内閣府、警察庁、法務省、文部科学省、厚生労働省】

#### ウ 警察における非行少年に対する支援

警察庁は、非行少年を生まない社会づくり活動の一環として、少年サポートセンター等が少年警察ボランティア等（少年指導委員、少年補導員、少年警察協助員及び大学生ボランティア）の民間ボランティアや関係機関と連携して行う、修学に課題を抱えた少年に対する立ち直り支援について、都道府県警察に対する指導や好事例の紹介等を通じ、その充実を図る。【警察庁】

### ② 非行等による学校教育の中断の防止等

#### ア 学校等と保護観察所が連携した支援等

法務省及び文部科学省は、保護司による非行防止教室の実施等保護司と学校等が連携して行う犯罪予防活動を促進し、保護司と学校等の日常的な連携・協力体制の構築を図るとともに、保護観察所、保護司、学校関係者等に対し、連携事例を周知するなどして、学校に在籍している保護観察対象者に対する生活支援等の充実を図る。【法務省、文部科学省】

#### イ 矯正施設と学校との連携による円滑な学びの継続に向けた取組の充実

法務省は、矯正施設において、民間の学力試験の活用や適切な教材の整備を進めるなどして、対象者の能力に応じた教科指導が実施できるようにする。また、法務省及び文部科学省は、矯正施設や学校関係者に対し、相互の連携事例を周知することに加え、矯正施設や学校関係者への職員研修等の実施に当たっては、相互に職員を講師として派遣するなど、矯正施設と学校関係者との相互理解・協力の促進を図る。さらに、法務省は、通信制高校に在籍し、又は入学を希望する矯正施設在籍者が、在所中も学習を継続しやすくなるよう、文部科学省の協力を得て、在所中の面接指導（高等学校通信教育規程（昭和37年文部省令32号）第2条に定める面接指導をいう。）の実施手続等を関係者に周知するなど、通信制高校からの中退を防止し、又は在所中の入学を促進するための取組の充実を図る。【法務省、文部科学省】

\* 2 : 『ネット学習の例』

NHK学園 学習手帳

user\_002さん

久しぶりだよね？おいらせやマイスタディも覗いてみてね★

マイスタディ

学習状況・試験結果    **マイスタディ**    スクーリング

⚠ 期限を過ぎているレポート

生物基礎

科目ごとの学習状況

1 05/30 ✍	2 06/20 ✍	3 07/10 ✍	4 09/15 ✍
6 11/10 ✍	7 12/05 ✍	8 01/10 ✍	9 02/20 ✍
11 /	12 /	特別課題1 課題 ✍	

✍ 学習中      期限一週間前  
+ 添削中      期限超過  
1 遅れ判定      未確認  
— 免除レポート

※ 郵送レポートの評価・概評は返送された紙面を確認してください。

試験・実技・効果測定の結果

中間試験  
期末試験

実技1  
実技2

効果測定1  
効果測定2

ネットホームルーム・ネット授業

次回のネットホームルームはありません  
次回のネット授業はありません

資料 2-1 : 『生物基礎』 のレポート状況の例  
各回の締め切りと自分の学習・提出状況が分かる画面



生物基礎 第1回

**学習目標** 生物の共通性や我々の生命活動を支える仕組みについて学習していきましょう。

学習を開始する

レポート概評・評価

科目名	生物基礎	レポート締切日	2019/05/30	評価
放送日	第1回～第7回	添削依頼日	-	
NHK高校講座リンク	<a href="http://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/seibutsukiso/">http://www.nhk.or.jp/kokokoza/tv/seibutsukiso/</a>	添削確定日	-	
		正解例	-	未

担当の先生

〇〇先生

科目内容

単位数	3単位	視聴番組	Eテレ（教育テレビ） 毎週 火曜日 午後2：40-3：00
試験	中間試験, 年度末試験	レポートPDF	<a href="#">20190327090418_生物基礎.pdf</a>

資料 2-2：『生物基礎』の第1回レポート  
レポートのPDFや必要な放送視聴の回、締切日、評価欄、担当教員などが載っている画面。

## 代謝

1

代謝に関する次の問いに答えよ。

1. 生物の体内で起こる、物質の分解反応と合成反応のすべてを指して何というか。

2. 水や二酸化炭素などの単純な物質を、細胞を構成する複雑な物質に合成する反応を何というか。

3. 複雑な物質を単純な物質に分解する反応を何というか。

4. 細胞内で、代謝に伴うエネルギーの吸収や放出を仲介している物質は何か。

リセット

正誤チェック

資料 2-3 : 『生物基礎』の「代謝」の課題  
枠内に解答を入力すると、次ページ資料 2-  
3 になる。

## 代謝

1

代謝に関する次の問いに答えよ。

1. 生物の体内で起こる、物質の分解反応と合成反応のすべてを指して何というか。

代謝

2. 水や二酸化炭素などの単純な物質を、細胞を構成する複雑な物質に合成する反応を何というか。

同化

3. 複雑な物質を単純な物質に分解する反応を何というか。

異化

4. 細胞内で、代謝に伴うエネルギーの吸収や放出を仲介している物質は何か。

ATP

### 解説

細胞内で起こる物質の合成と分解の反応をあわせて「代謝」といいます。

同化、異化の違いについても確認しておきましょう。



**資料 2-4：『生物基礎』の「代謝」の課題**  
灰色の枠内に解答を入力すると、正解に○印、不正解には×印が、そして解説が出てくる。